

公認会計士の仕事は、A I に奪われてしまうのか

資料 2

日本の労働人口の49%が就いている職種において、人工知能やロボット等で代替される可能性が高いとの研究が示された。

A I によって仕事が奪われるのではなく、A I によって仕事の内容が変わっていくもの。

A I に代替できる業務は、積極的にA I を活用すべきである。

公認会計士の行う判断は、高度な知識・深い経験に裏打ちされた職業的専門家としての判断を伴うものであり、とても創造的なものである。

コミュニケーションの観点からも、監査先企業と不定形かつ極めて人間的なコミュニケーションを求められる。

A I に代替できる業務は、積極的にA I を活用することにより

人間にしかできない、分析、洞察、判断、監査先とのコミュニケーションといった監査にとって最も重要な業務に集中することができ、より質の高い監査を実現するとともに、監査を今よりもさらに魅力ある職業にできる。

詳しくはショートビデオに

【ショートビデオ】公認会計士とAIの関係

【掲載日】2017年09月26日

最近IT技術が格段に進歩したことにより、公認会計士の仕事がAIにとって代わられるといった内容の報道がされています。それは事実なのか、また、公認会計士業務が今後どのように変化していくのかについて、日本公認会計士協会の宇野正孝 監査・保証、IT担当理事に話を聞きました。



AI 公認会計士

で検索！